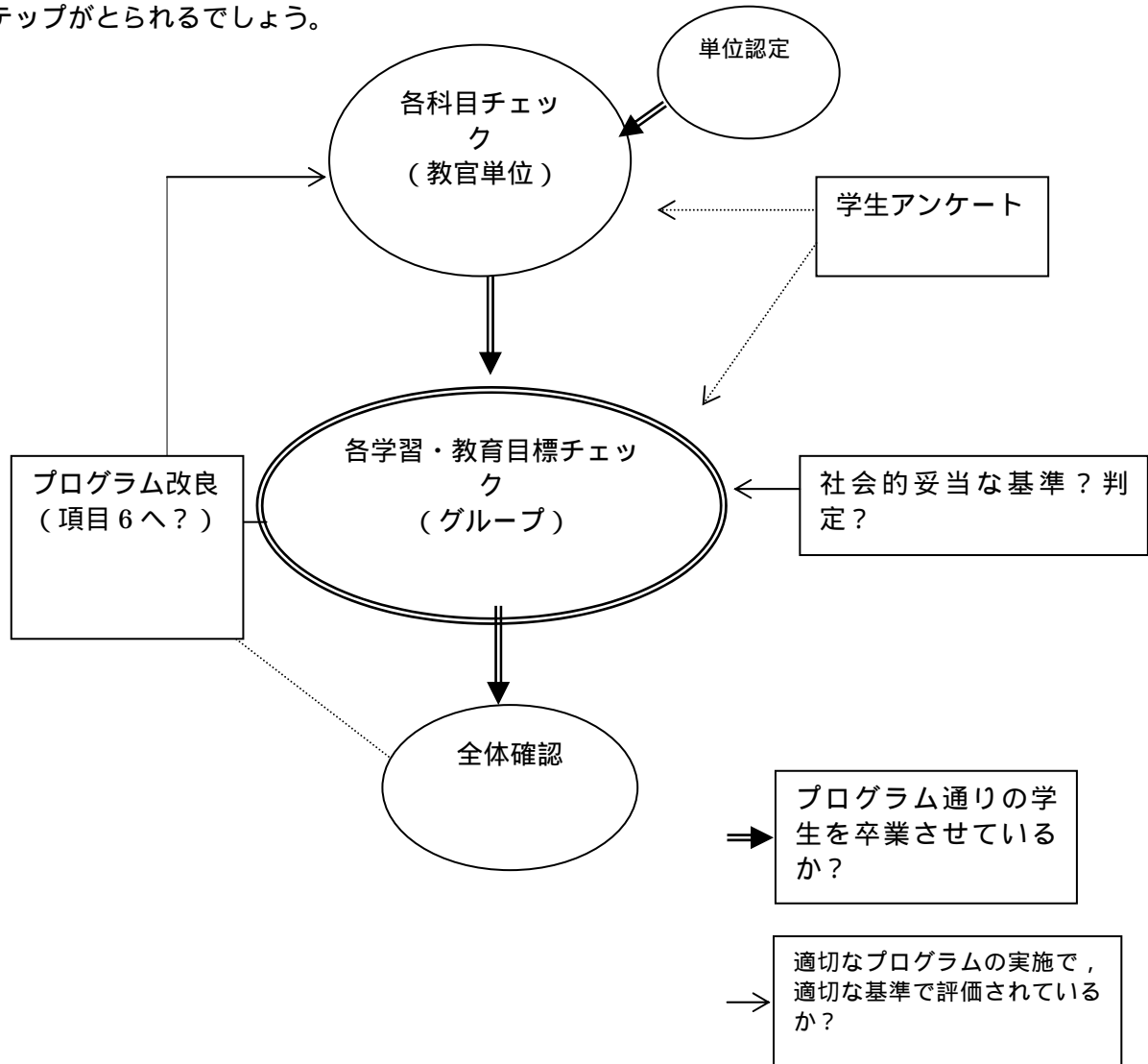


授業改善サイクルについて

このFDは、7/9学部長&教育制度改革委員長からの文書にあるFDテーマ「授業アンケートの授業へのフィードバック(工夫した点、反省点等)」に対応するものであり、かつJABEEが基本的に要求する「教育の点検と改善サイクルの確立」というテーマにも対応するものです。

JABEEでは、教育の質の確保・向上を目標にしていますが、そのためには継続的に成果を点検評価して次の改善に結びつける活動が大切です。すなわち、改善の前に点検評価が必要となります。点検評価は最終的には、学科の目標に照らして行われますが、「全体 グループ 個別」のステップがとられるでしょう。



改善サイクル図(信岡による)

このFDの目的は、各科目の点検評価を担当者が行った結果を持ち寄り、学科としての成果を挙げているかどうかを確認し、次の改善に向けて方針を確定し、実施への合意を取り付けることにあります。

従って、具体的な仕事は、科目レベルでの点検を実施する。点検結果を持ち寄り、不十分な項目を明らかにして、さらにFDにより改善方向を確定し、次期の改善実施計画を策定し、学科全員で確認することになります。これが、毎学期毎にサイクリックに行われることになります。

Q．なぜこのFDが開かれたのか？

JABEE 2.6 基準6：教育改善 2.6.1 教育点検システムでは、「学習・教育目標達成度の評価結果を収集・検討し、教育内容、教育手段および教育環境等を点検する教育点検システムが在り、その仕組みが開示されているか。さらに、それに関する活動が実施されているか。」が問われています。

このFDは、上記に対応する公式な活動であり、記録を残し公開できるようにします。

Q．それでは、授業担当は何をすればよいのですか？

基準5に「学習・教育目標達成度の評価」がありますので、これに沿って点検評価を実施します。

(1) 個々の科目ごとに、シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目の目標に対する達成度が評価されているか。

これを示す根拠（シラバス、成績表、試験問題・答案、レポート、作品、卒業論文など）、とくに、合否のボーダーライン上にある資料が審査の対象になるので、これらの資料にはラベルを付けるなどして、審査チームが審査しやすいように工夫・整理しておくことが必要である。

また、多数回あるいは多種類の試験等の結果で合否を判定している場合には、「それらの試験等の結果をどのように考慮して評価するか」を明確にし、評価に使用した代表的なものについて、少なくとも合格最低クラスのもを全員分提示すること。また、合否の水準をいかにして決定しているかの情報も添付しておくことが望ましい。

具体的なチェック項目は、金教務委員から事前に配布された授業点検改善表に記入していくこととなりますが、再掲すると以下の通りです。

- 1) シラバスに目標、授業の狙い並びに成績評価方法が記載されているか？
- 2) 科目の目標に対する達成度が評価できる成績評価基準を作成しているか？
- 3) シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、達成度が評価されているか？
- 4) これを示す根拠（シラバス、成績表、試験問題・答案、レポート、作品、卒業論文など）資料を整理し保存してあるか？

この後に、コース全体の達成度評価になります。（JABEEWG担当）

参考資料1 JABEE自己点検書

基準5：学習・教育目標達成度の評価&基準6：教育改善

参考資料2 JABEE自己点検書作成の手引き

補足説明

J A B E E の観点は、「(都市システム工学)コースが適切に教育を実施し成果を挙げているか？」であり、個々の教官の実績評価ではない。すなわち、全体としてうまくいっているかである。

そうすると、複数教官が関係する科目の成績評価方法&評価基準*には注意が必要である。

1. 序論や建設工学演習のような複数の教官が分担する科目の成績評価は？ 成績評価基準を予め作成しておき、それに基づいて評価を実施する必要がある。
2. 主題別ゼミナールのように、2名がグループ分けして授業を行い、成績評価も別々で行う科目は？ 何も調整がないと、グループで成績評価がバラバラという結果になるが、どのように妥当性を説明するのか？ 主題別ゼミナールは、シラバスは一つのはず。それならば、成績評価基準も統一する必要がある。テーマは違っても、狙いは同じはずであるので可能と考えられる。
3. 実験や演習のように、グループで実施する場合の個人の成績評価は？ これは難しい。実験の実績を聞きたい。

* 成績評価方法は、中間・期末試験あるいはレポート、授業貢献度などの成績を評価する際の評価項目であり、一方、評価基準はその項目がA, B, Cのどのような評価に該当するかのルールと考えられる。

気のついたこと

- ・ 学科以外の授業担当(学内他学科、非常勤講師など)に依頼していない。
- ・ 自己点検表が提出されていないものがある。海外出張者に注意。
- ・ 補講が終わっていないため、点検評価ができないものがある。
- ・ 復習教官担当の授業で、科目の責任者が明示されていないものがある。
- ・ アンケート分析結果の返却が遅い。全科目実施することにして学科で全ての処理を対応する。
- ・ 必要な添付資料がつけられていないものがある。まず、ちゃんとやっているという証拠を示さなければならない。レベル(質)はその次。
- ・ 専任教員以外にお願いする科目の点検は専任教官が行う。学科内で担当者を決めて、必要な連携を行う。

参考資料1 JABEE 自己点検書

<<< 基準5：学習・教育目標達成度の評価 & 基準6：教育改善 >>>

2.5 5: 学習・教育目標達成度の評価

(1) 科目ごとの目標に対する達成度評価

引用・裏付資料名（下記は例示）

1. 表8 学習・教育目標を達成するために必要な主要授業科目の評価方法と評価基準（p. ）
 2. 学科内関連委員会活動記録（p. ）
 3. 卒業研究の複数教員による採点結果例（p. ）
 4. シラバス（これまでに添付していれば引用で可）（p. ）
 5. 成績原簿および関連記録（氏名は不要，p. ）
- 試験問題・答案・レポートなどは実地審査で提示，この場合，成績と答案の対応が分かる必要あり。

(2) 他の高等教育機関で取得した単位に関する評価方法と実施

および編入生等が編入前に取得した単位に関する評価方法と評価基準および実施

引用・裏付資料名（下記は例示）

1. 評価方法を記載した文書（p. ）
2. 評価実施例（p. ）

(3) 各学習・教育目標に対する達成度の総合的评价方法，評価基準と実施

引用・裏付資料名

1. 表3 各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価方法および評価基準（p. ）
（下記は例示）
2. 評価結果の例（p. ）
3. 評価実施会議議事録（p. ）
4. 就職先へのアンケート（卒業生・上司）（p. ）
5. 外部評価結果（p. ）

(4) 修了生全員のすべての学習・教育目標の達成

引用・裏付資料名（下記は例示）

1. 前年度修了生あるいは実質的修了生の評価結果
（氏名は不要，p. ）
（下記は例示）
2. 評価実施議事録（p. ）

「学習・教育目標達成度の評価」について表1に記入した点数と判定した理由

2.6 基準6: 教育改善基準

2.6.1 教育点検システム

(1) 教育点検システムとその開示・実施

引用・裏付資料名（下記は例示）

1. 会議や委員会名簿，規約等（p. ）
2. 教員による授業改善策の公開例（p. ）

3. 学科内当該委員会活動データ，活動記録（p. ）
4. 組織的教育活動計画および報告書（p. ）

(2)学習・教育目標の設定，学習・教育目標達成度の評価方法・評価基準等の適切さを社会の要求や学生の要望に照らして点検できるような構成と実施

引用・裏付資料名（下記は例示）

1. 会議や委員会名簿，開催データ，議事録（p. ）
2. アンケート結果（p. ）

(3)教育点検システムを構成する会議や委員会等の恒常的な活動記録の開示

引用・裏付資料名（下記は例示）

1. 学科内関連委員会等の活動データおよび議事録（p. ）
2. 教室会議データおよび議事録（p. ）
3. 学内当該委員会活動データおよび議事録（p. ）

「教育点検システム」について表1に記入した点数と判定した理由

2.6.2 継続的改善

(1)教育点検の結果に基づいた学習・教育目標，達成度の評価方法・評価基準等の改訂と改善活動を継続していくシステム

引用・裏付資料名（下記は例示）

1. 学内関連委員会活動データおよび議事録（p. ）
2. 教務委員会開催頻度および議事録（p. ）
3. 学科内関連委員会活動データおよび議事録（p. ）
4. 組織的教育計画書（p. ）

「継続的改善」について表1に記入した点数と判定した理由

参考資料2 JABEE自己点検書作成の手引き

2.5 基準5：学習・教育目標達成度の評価

プログラムの修了生全員が、設定したすべての学習・教育目標を達成していることを証明しなければならない。この証明方法の開発と水準の設定は、教育方法の開発と同様に、教育機関の責任であり、教育機関の努力が望まれる。

(1) 個々の科目ごとに、シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目の目標に対する達成度が評価されているか。

- ・ 主要授業科目、特に表5で印を付した授業科目の評価方法と評価基準(シラバスに記載されているもの)を示す一覧表(表8)を作成し、各科目の達成度が評価されていることを説明する。
- ・ 科目ごとの目標に対する達成度評価がシラバスに示した評価方法と評価基準に従って行われていることについては、主として実地審査時の関係資料閲覧で審査チームに確認してもらうことになる。

(i) これを示す根拠(シラバス、成績表、試験問題・答案、レポート、作品、卒業論文など)、とくに、合否のボーダーライン上にある資料が審査の対象になるので、これらの資料にはラベルを付けるなどして、審査チームが審査しやすいように工夫・整理しておくことが必要である。なお、答案等は少なくとも合格最低クラスのもの全員分、実地審査時に提示すること(コピーでも可)。合格最低クラスのものとは、例えば、「A, B, C」あるいは「優, 良, 可」等の評価で、「C」あるいは「可」以上を合格としている場合の「C」あるいは「可」の答案等という意味である。また、多数回あるいは多種類の試験等の結果で合否を判定している場合には、「それらの試験等の結果をどのように考慮して評価するか」を明確にし、評価に使用した代表的なものについて、少なくとも合格最低クラスのもの全員分提示すること。また、合否の水準をいかにして決定しているかの情報も添付しておくことが望ましい。

その準備状況を具体的に説明する。

(ii) 科目ごとの評価について、科目担当者と成績評価担当者を別にしていたり、評価について教員相互に申し合わせていることがある、などの工夫を行っていれば、これについても具体的に説明するとよい。引用・裏付資料としては、例えば、学科内関連委員会活動記録、卒業研究の複数教員による採点結果例・シラバス(これまでに添付していれば引用で可)、成績原簿および関連記録(氏名は不要)などの必要な部分のコピーを自己点検書(引用・裏付資料編)に添付する。

(2) 学生が他の高等教育機関で取得した単位に関して、その評価方法が定められ、それに従って単位互換が実施されているか。編入生等が編入前に取得した単位に関して、その評価方法が定められ、それに従って単位互換が実施されているか。

(i) 学生が他の教育機関で取得した単位や編入生等がプログラム受け入れ前に取得していた単位に関して、どのような方法と基準で評価し単位互換を行うかについて定めてあることを、関係する規則や資料などを引用・参照して、説明する。とくに、その評価方法による単位互換がプログラムの学習・教育目標達成度の評価と整合していることについての説明が必要である。引用・裏付資料としては、例えば、評価方法を記載した文書、評価実施例などの必要な部分のコピーを自己点検書(引用・裏付資料編)に添付する。

(3) プログラムの各学習・教育目標に対して、個々の科目ごとに行われている評価の他に、例えば、各科目の重み付けや外部試験の結果などを考慮して、その達成度を総合的に評価する方法と基準が定められ、それに従って適切に評価が行われているか。

(i) プログラムの学習・教育目標の一つ一つについて、達成度を総合的に評価するための評価方法および評価基準として定めてあることを、表3、および関係する規則や資料などを引用・参照して、説明する。なお、達成度判定最終試験などの試験あるいはそれに準ずる方法を行っている場合には、試験問題とその答案などに関して2.5の(1)の(i)で述べたことと同じことに留意する必要がある。

(ii) この評価方法と評価基準を用いて学習・教育目標の達成判定を行うことで、学生が身に付けた(a)~(h)の知識・能力が社会の要請する水準以上であることを審査チームが読み取れるよう工夫し、説明する必要がある。

(iii) 学習・教育目標およびその評価方法と評価基準に対する社会の要請する水準が“この程度である”、と判断した具体的根拠を説明する。引用・裏付資料としては、例えば、評価結果の

例，評価実施会議議事録，就職先へのアンケート（卒業生・上司），外部評価結果などの必要な部分のコピーを自己点検書（引用・裏付資料編）に添付する。

(4) **プログラムの修了生全員がすべての学習・教育目標を達成していることを確認する仕組みが存在し，それに基づいて修了の判定が行われているか。**

(i) プログラムの修了生全員がすべての学習・教育目標を達成していることを，修了判定の方法や基準を具体的に示して説明する。また，実地審査の直前の年度の修了生（初めて認定・審査を受ける時は実質的修了生）の履修状況の一覧を用意する。この一覧には，すべての学習・教育目標に対する達成度評価の結果が含まれていなければならない。引用・裏付資料としては，例えば，前年度修了生あるいは実質的修了生の評価結果（氏名は不要），評価実施議事録などの必要な部分のコピーを自己点検書（引用・裏付資料編）に添付する。

(ii) 過去数年間のプログラムの受け入れ人数と修了生の人数の推移を表で示す。ただし，初めて審査を受ける場合には，この限りではない。

2.6 基準6：教育改善

2.6.1 教育点検システム

(1) 学習・教育目標達成度の評価結果を収集・検討し，教育内容，教育手段および教育環境等を点検する教育点検システムが在り，その仕組みが**開示されているか。さらに，それに関する活動が実施されているか。**

(i) 教育点検システムの存在とその仕組みを，例えば，当該システムを構成する会議や委員会等の流れ図で示し，それぞれの会議や委員会等の役割とシステムとしての機能を具体的に説明する。さらに，その仕組みがどのように開示され，それに関する活動がどのように行われているかを，関連する資料などを引用・参照して，具体的に説明する。引用・裏付資料としては，例えば，当該システムを構成する会議や委員会名簿と規約等，教員による授業改善策の公開例，学科内当該委員会活動データ，活動記録，組織的教育活動計画および報告書などの必要な部分のコピーを自己点検書（引用・裏付資料編）に添付する。

(2) 教育点検システムは，学習・教育目標の設定，学習・教育目標達成度の評価方法・評価基準等の適切さを社会の要求や学生の要望に照らして点検できるように構成されているか。また，実際にそれらの点検が行われているか。

(i) 教育点検システムを構成する会議や委員会の構成メンバーとその役割などを，関連する規則や資料などを引用・参照して，示し，学習・教育目標の設定，学習・教育目標達成度の評価方法・評価基準等の適切さを社会の要求や学生の要望に照らして点検できる構成になっていることを具体的に説明する。さらに，会議や委員会の議事録などを引用・参照して，それらの点検が実際に行われていることを説明する。引用・裏付資料としては，例えば，会議や委員会名簿，会議や委員会開催データと議事録，アンケート結果などの必要な部分のコピーを自己点検書（引用・裏付資料編）に添付する。

(3) 教育点検システムを構成する会議や委員会等の恒常的な活動記録が開示されているか。

(i) 恒常的な活動記録をどのような方法でどこまで開示しているかを説明する。引用・裏付資料としては，例えば，学科内関連委員会等の活動データおよび議事録，教室会議データおよび議事録，学内当該委員会活動データおよび議事録などの必要な部分のコピーを自己点検書（引用・裏付資料編）に添付する。

2.6.2 継続的改善

(1) 教育点検の結果に基づいて，教育内容，教育手段および教育環境等の改善が行われ，必要があれば学習・教育目標，達成度の評価方法・評価基準等の改訂が行われているか。さらに，これらの改善活動を**継続的に行うシステムが存在し，機能しているか。**

(i) 教育点検の結果に基づいて，教育内容，教育手段および教育環境等，さらには，学習・教育目標，達成度の評価方法・評価基準等の改訂を行っていれば，何を，どのような点検結果に基づいて，どのように改訂したかを具体的に説明する。さらに，改訂したことにより得られた効果についても説明する。

(ii) 改善活動を継続していくシステムの具体的な仕組みを示し，継続的改善システムとして効果的に機能しているかどうかを，システムを構成する会議や委員会等のメンバーとその役割等も含めて，説明する。引用・裏付資料としては，例えば，学内当該委員会活動データおよび議事録，教務委員会開催頻度および議事録，学科内当該委員会活動データおよび議事録，組織的教育計画

書などの必要な部分のコピーを自己点検書（引用・裏付資料編）に添付する。